



2025年3月1日発行
 公益財団法人とちぎYMCA
 〒320-0041
 宇都宮市松原2-7-42
 Tel 028-624-2546
 Fax 028-624-2489
 www.tochigiyymca.org
 発行人 / 塩澤 達俊
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News

3

YMCAで感じたこと



私は小学生の頃、似た団体でキャンプなどの活動に参加し、そこで得た経験や感情が、今の自分を形成する大きな要素の一つとなっています。そうした体験を通じて、「当時もらった経験や感情を、今の子どもたちに還元し、つないでいきたい」という思いが生まれ、YMCAでの活動に参加し始めました。

キャンプや野外炊飯など、さまざまなプログラムに関わらせていただきました。楽しい思い出とともに、多くの反省もありました。それらを通じて、プログラムへの考え方は毎回変化し、更新されていきました。しかし、どの経験にも共通していたのは、「子どもたちのために」という思いでした。

今回のテーマである「YMCAで感じていること」大学4年間のYMCAでの日々を振り返ると、「誰かのために頑張る」という経験と価値観を得られたことが、最も大きな学びだったと感じています。大学生になる前の自分を振り返ると、自分以外の誰かのために準備をし、全力を尽くす経験は意外と少なかったことに気づきました。

子どもたちの笑顔は、驚くほどの力を持っています。彼らの素直な反応や言葉から、多くの気づきを得ることができました。長く関わる中で、子どもたちの成長する力に驚かされることも多く、その一つひとつの出来事が、何にも代えがたい特別な思い出となっています。そして、それらが原動力となり、自分自身も頑張ることができたのだと思います。

一方で、リーダーの言動が子どもたちに与える影響の大きさを実感し、自分自身の行動や言葉を見直すきっかけにもなりました。「誰かのために頑張る」ということは、結果的に自分自身の成長につながっていたのです。このような貴重な経験をくれたYMCA、子どもたち、そしてリーダーの皆さんに、心から感謝しています。こうして得られた学びは、これからの人生においても、きっと支えとなり助けとなってくれるでしょう。

これから社会の変化とともに、YMCAも変わっていくかもしれません。しかし、いつまでも「子どもたちのため」の場所であり続けることを、心から願っています。

最後に、今まで関わってくれた子どもたちへ!

漢字が多くてちょっと難しいかもしれないけれど、頑張って読んでくれたらうれしいな!こーちゃんと一緒に遊んでくれて、ありがとう。本当はとても寂しいけれど、こーちゃんは今年度でとちぎYMCAを卒業します。

みんなで作ったYMCAでの思い出、そしてみんなからもらったたくさんのものは、これからもこーちゃんの心の支えであり、パワーになり続けます。それは、ずっと変わりません!だから、みんなもリーダーからもらったたくさんの愛を大切にしてください。そして、周りの人や友達にも、その愛をつないでいてほしいです。

この先、つらいことやうまくいかないこともあるかもしれませんが、でも、YMCAでつながった仲間や経験が、きっとパワーとなり、いろいろな形で支えてくれるはずです。

最後に、こーちゃんからのお願いです。「自分に正直に、自分を大切に」生きていってね!みんなの幸せを、心から願っています!

国際医療福祉大学4年 渡辺 航平(こーちゃんリーダー)

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2024年度とちぎYMCA年間聖句

《善いサマリア人》の喩え

新約聖書 ルカによる福音書 第10章30節~37節



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「楽しかった豆まき」



今年の節分が2月2日(日)のため、園では豆まきを1月31日(金)に行いました。事前に保育者や友だちと「みんなで鬼をやっつけよう」と話し合い、やる気満々なまあがれつ組の子どもたち。当日は、保育室にバリケードのテーブルを置き、製作した鬼の帽子を被り、手には新聞紙等で丸めた大きな豆を持って、準備万端で鬼を待ち構えます。

すると急に大きな風の音が聞こえ、赤鬼と青鬼がやって来ました。鬼の登場に後ずさりする子どもたちでしたが、誰も泣かずに豆をまいて応戦できました。体育クラスでボールを投げる遊びを取り入れていたため、豆は力強く鬼に当たります。

最後は「せーの」の掛け声とともに「おには～そと」「ふくは～うち」と心と力を合わせて大きな声で豆まきすると、鬼は遠いお山へ逃げていきました。子どもたちの顔は達成感でいっぱい、行事を通してまた一つ成長できたことを感じました。みんなが1年間健康で幸せに過ごせますように。

まあがれつ組担任 原 由貴子



ようとう保育園 「さくら組(年長児) 食育活動の様子」



1月31日に日本栄養給食協会の方たちによる食育講話がありました。野菜のクイズでは皮付きの“里芋”を見ても何の野菜か分からない子が多く、正解を聞くと「へ～!里芋ってこんな色なんだ!」と驚いていました。食べ物が体の中でどうなっていくのかをエプロンシアターで見せてもらった際には、うんちとして出るまでに様々な臓器を通っていくことも学ぶことができました。

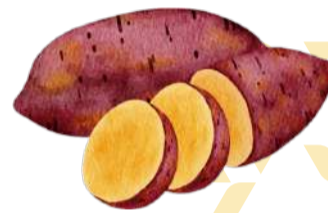
さくら組ではこの1年間にじゃがいもやさつまいもの苗植え・収穫、味噌作り、とうもろこしの皮むき、お泊り保育でのおにぎり作り、炊飯活動など食に関する様々な活動に取り組んできました。野菜が苦手な子は「自分で作ったから食べてみようかな・・・」と口にするきっかけになったり、米とぎを通して「家でもやってみる!」とお手伝いへの意欲が高まったり、自分が作った味噌のおにぎりが出ると「いつもより美味しい気がする!」と嬉しそうに話し、あっという間に完食していました。実際に体験することで普段の給食やおやつの際にも「これって何のお肉なんだろう?」「これ私の好きな野菜!」と食への興味・関心が深まったように感じます。

さくら組担任 亀和田里沙 阿久津真里



今年度、園では食育委員会を発足し、「食に興味・関心を持ち、食べることが大好きな子」を目標とし、各年齢の食育年間計画を見直し、新たに作成しました。次年度は園の食に対する方針や食育の取り組みを紹介するパンフレットを作成していく予定です。

食育委員会 沼口会里子 増田朋江 中島菜緒 高松ひとみ



子どもの家だより ～西が岡小子どもの家 どんこ広場～ 「寒い冬でも外遊び、豆まき」



4月に入会した1年生も、どんこ広場で毎日元気に外遊びを楽しんでいます。最初の頃は一輪車に乗れなかった子どもたちも、少しずつ練習を重ね、今では1人で乗れるようになり、広い校庭を一周できるようになりました。さらに、2人で手をつないで回る「メリーゴーランド」もできるようになり、成長の様子がかがえます。お迎えに来たお母さんに「見せたい!」と意気込んで挑戦するものの、うまくいかず泣き出してしまいうこともありました。そんな時には、友だちが「大丈夫だよ」と寄り添い、励まして

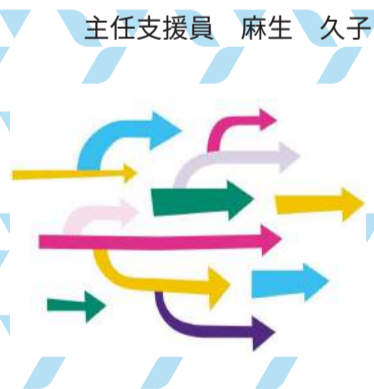
くれる姿があり、とても温かい気持ちになりました。

節分の豆まきは、季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払うための日本の伝統行事です。どんこ広場でも、子どもたちが健康に過ごせるよう願いを込めて、2月3日(月)に豆まきを行いました。

最初に「顔には当てない」ことを約束し、校庭で「鬼は外～!」「福は内～!」と元気な掛け声とともに、鬼役の子に向かって豆を投げました。豆まきの後は、ゼリヤーあめ、リングキャンディーなどのおやつを1人1袋ずつ配り、友だち同士で輪になって遠足のように楽しく食べる様子が見られました。その微笑ましい光景に、改めて子どもたちの成長と絆を感じることができました。



主任支援員 麻生 久子



ひがしやまアトムクラブ 「2・3月の行事について」



厳冬の中、2月3日は風もほとんどなく、過ごしやすい日となりました。この日は、学校の北にある雷電山に登り、節分の豆まきを行いました。少量ずつ豆を配り、約40人で頂上から「鬼は外」「福は内」と掛け声をかけながら、スタッフも一緒に豆をまきました。

約200段の階段を登ってきた後だったので、子どもたちもお腹がすいた様子でした。豆まきの後は手を消毒し、特別なおやつシュークリームを頬ばり、「もっと食べたい!」と満足そうな表情を見せていました。



アトムから雷電山までの片道約5分の道のりでは、初めての試みでしたが、子どもたちは山の上で走ったりと、楽しそうな様子でした。

さて、これから卒業シーズンを迎えます。アトムに通常通っている6年生は1人ですが、長期休みや登録のある子どもを含めると6人が卒業を迎えます。

先日、1・2年生を学校まで迎えに行った際、1年生の女の子が「〇〇ちゃんももうすぐ卒業しちゃうんだね、悲しい」と話していました。卒業する6年生は、低学年の子とよく遊んでくれていたため、寂しさもひとしおです。

これから、卒業生を送る会を催す予定です。心を入れて、楽しい会にしたいと思います。去年のように思い出に残る会となるよう、スタッフ一同、準備を進めてまいります。

藤原 弘子

もうひとつの家 アットホームきよはら × 親と子どもの居場所めいめい 「合同餅つき大会の様子」



月の家、アットホーム、めいめいが合同で、餅つきを行いました。餅つきを初めて体験する子どもたちは、「これがお餅になるの?」「どのくらいついたら、お餅になるの?」と、不思議そうに餅米を見つめていました。「ついでみたい人?」と声をかけると、挑戦したい子どもたちが次々に手を挙げ、意欲的な姿が見られました。

最初は大人に手伝ってもらっていた小学生も、中学生が一人で餅をつく姿を見て、2回目には一人で挑戦していました。一人で杵を持つのが難しい子も、お兄さんやお姉さんに支えられながら協力して餅をつき、助け合う様子が印象的でした。周りの人たちも「よいしょ!」と元気な掛け声をかけ、餅をつく仲間を応援していました。

今回はマイホームきよはらで実施し、利用者の皆さんも見学いらしていただきました。次第に応援の声が大きくなり、場が一層盛り上がりました。

「自分でついたからおいしい!」「こんなに伸びるお餅は初めて!」と、つくたての餅をおいしそうに味わいながら食べる姿が見られました。みんなで楽しい時間を過ごすことができました。

牧野 友香



スプリングプログラムがはじまります!



申込：2月21日(金) 12:30～

～宿泊キャンプ～

磐梯シュプールスキーキャンプ (3.25~3.27)
新1年生キャンプ (3.29~3.30)

～ワンデイプログラム～

チョイス①戦場ヶ原ハイキング (3.30)
チョイス②いちご狩り&パフェ作り (3.31)

～ウェルネスプログラム～

第5回とちぎYMCAサッカー大会 (3.22)

とちぎYMCAではこの春も子どもたちの豊かな成長を願い、スプリングプログラムを計画しております。YMCAのキャンプは、「為すことによって学ぶ (Learning by doing)」を理念とした野外教育活動です。その理念は、「どのような教育的な経験も、子ども(対象者)の興味・関心から離れていたならば、その経験は子ども(対象者)にとって本質的なものにならない。よって興味と自発性に基づいて子どもを導く」という考え方に導かれたものです。

子どもたちは、友だちと一緒に自然の中でさまざまな活動をすることによって、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきます。YMCAでは、子どもたちが安全に、安心して、たくさんの自然に触れながら、仲間と一緒に思いっきり遊ぶことを通して、一人ひとりの豊かな成長を育みます。

スプリングプログラムお申込みはコチラ!▼



だいすきな春に会いにいこう!

2025年夏フィリピンキャンプ再開予定!



2019年のコロナ前まで毎年行っていたフィリピンキャンプ再開のため、現地の状況把握やパートナーとの打ち合わせを目的にフィリピンを訪問しました。1985年に始まったこのフィリピンキャンプは、その時々ニーズに合わせて内容を変えながら30年以上続いています。コロナ禍により中止していましたが、2025年度の夏に再開する予定です。

5年ぶりとなるフィリピン訪問でしたが、空港から延びる幹線道路が新設され、カジノの数が増えていた一方で、マニラ中心部を抜けると家が密集し、決して衛生環境が良いとは言えない中で子どもたちがあふれている景色は変わらずでした。

パートナーである教会のメンバーや、以前のキャンパーたちと地域に必要なことについてさまざまな話し合いを行いました。フィリピンのユースと日本のユースがともに明るい将来を語り合えるようなプログラムを実施していこうと、固く約束を交わしてきました。

今後のフィリピンキャンプをお楽しみに!



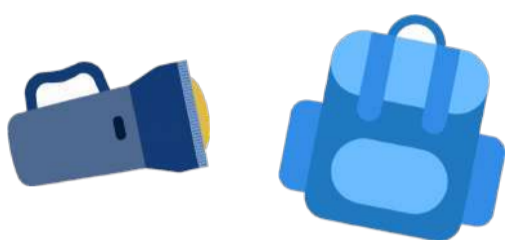
宇都宮市青少年活動センター (トライ東) 主催事業 多文化防災まち歩き

私たちが生きている地域の中には、いろいろな人が住んでいます。外国にルーツを持つ人、おじいちゃんおばあちゃん、赤ちゃんを連れてお母さん、障がいがあって車椅子で過ごしている人など。普段何気なく暮らす地域の中にも様々な生活在り方が存在しています。日本は世界で4番目に地震が多い国で知られています。様々な文化を持つ方々の視点に立ち、まち歩きをしてみませんか。



《日程》 2025年3月23日(日) 10:00 ~ 16:00
 《集合》 10:00 宇都宮駅東口ライトキューブ小会議室 集合 受付
 《解散》 16:00 宇都宮駅東口ライトキューブ
 《参加費》 1,000円 (おつりのないようお持ちください)
 《服装》 動きやすい服、履きなれた靴でおこしく下さい
 《持ち物》 筆記用具、メモ帳、水筒、参加費

お申込みはコチラ!▼



月刊# (ハッシュタグ)



とちぎYMCA総主事
塩澤 達俊

第43回 #なにそれなにそれ

#演繹法 #帰納法 #良きサマリア人 #聖句

とちぎYMCAでは『年間聖句(聖書のことば)』を毎年選んでいます(この紙面のどこかにもあります)。壁に貼り出したりはしませんが、心の中や、いろいろな行事や職場で、このことばと向き合って1年を過ごしてみましよう!という感じです。

「行って、あなたも同じようにしなさい」これが、4月からのことばです。新約聖書のルカによる福音書10章25~37節の「よきサマリア人のたとえ」に出ています。

イエスさまが「行って、同じようにしなさい!」とおっしゃるので、みんなで「同じよう」にしたいと思います(なにを、どんなふうに、なぜ?ということについては別の機会に紹介しましょう)。

ところで聖書にはキリスト教を信じている人にも、そうでない人にも響くことがたくさん書かれています。「行って、同じようにしなさい」にも「そうだ、同じようにしよう!」と思わせるエピソードです。

なぜでしょう?(神さまのことばだからということここでは敢えて言わないでおきます)

近ごろ流行りのロジカル・シンキング(論理的思考)では、「演繹法(えんえきほう)」と「帰納法(きのうほう)」という推測のしかたがとりあげられます。

○帰納法とは、経験や起こった出来事からパターンを見つけて仮説を立てて推測します。

たとえば、
 経験① ニャーと鳴くこの白い生き物はネコであると言われている。
 経験② ニャーと鳴くこの黒い生き物はネコであると言われている。
 経験③ ニャーと鳴くこの三毛色の生き物はネコであると言われている。
 仮説: ニャーと鳴くここにいる黄色い生き物はネコであろう(と、推測される)。

○演繹法とは、一般的な前提から個別の仮説を導き出す推測のしかたです。

たとえば、
 一般論: ニャーと鳴く生き物は(おおくのひとに)ネコであると言われている。
 出来事: ここにニャーと鳴く生き物がいる。
 仮説: ここにいる生き物はネコであろう(と、推測される)。

さて、何千年(新約聖書で約2千年)も前に書かれた聖書は、ある意味で知恵の書であり真理の書でもあります(神さまの知恵が、人間の知恵かについてはここでは敢えてふれません)。「行って、同じようにする」ことの明らかなさや、そうするに値するとわたしたちが思う確かはどこからやってくるのでしょうか?帰納法的に経験を重ねてこのことばが真理として生きて続けたのか、演繹的に核心を突いた真理のことばが今日まで生きて仮説を検証し続けてきたのか、あなたならどう考えますか?



みなさん、こんにちは。とちぎYMCAです。
 どなたにも開かれていて、必要な時にどなたでもご利用いただける共生の場と、支えられ-支えるの支え合い循環型社会の創出に全精力を傾けたい!わたしたちのYMCAが、今日もボランティアの皆さんをはじめ、ご賛同をいただいているサポーターの方々、長年にわたってご支援をいただいている会員の方々、ご利用者の方々など、あらゆる世代のあらゆる方々とともに歩ませていただいている理由はこれです。

そうしたわけで、わたしたちのYMCAは2013年より「公益財団法人」として(会員組織という枠組みを超えて)性別、国籍、年齢その他あらゆる属性を問わず、あらゆる方々に開かれたYMCAとして今日もあります。そのため、わたしたちYMCAはその活動と運動と現在をあらゆる方々にご報告する義務があります。

いままで「YMCA大会」と銘打ったイベント開催がその場となってきましたが、よりたくさんの方々にお伝えできるよう、2024年度は『別冊 The とちぎYMCA』としてWebサイトで年度内開催することとなりました。

通常の活動報告は公式ホームページをご覧くださいと存じますが、別冊の特集は【とちぎYMCAの本部館:YMCA EASTが移転してオープン!】と【とちぎYMCAの新しい活動群の居場所が熱い!】です。

YMCAへのご質問フォーム、ボランティア参加の募集とエントリー、ご寄付の受付などインタラクティブなコミュニケーション・ツールも組み込んであります。

とちぎYMCA 総主事 塩澤達俊

特設ページは3月31日まで公開中です!ぜひ、ご覧ください。

特設ページはコチラ!▶



【感謝】2024年度とちぎYMCA 会員報告

■2025年1月 会費ご納入いただいた皆さま(敬称略)

中澤堅次、矢部万紗人、粕田晴之

ありがとうございました。